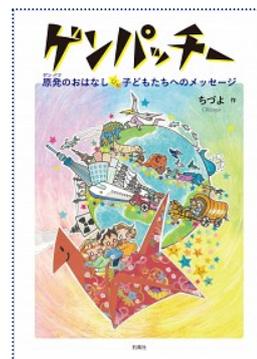


本の紹介

漫画「ゲンパッチー」 ちづよ著 2019.8.10発行 石風社
原発のお話し・子どもたちへのメッセージ

人任せにしない「イキルスベ(生きる術)」を学べる原発解説書



3児の母である作者のちづよさんは、あとがきに「子どもでも楽しく読めて、今問題とされている原発のことが少しでも理解できるようにと願い」書いたと記している。その願い通り、「ゲンパッチー」は、ファンタジーの世界に原発や放射線、原発を取り巻くさまざまな問題が盛り込まれ、わかりやすく解説されている。そして、核は使っちゃダメと皆に伝え行動しようと呼びかけている。

子ども向けであるが、専門資料に基づき、反原発事務所に足を運び、書きあげた後は専門的なチェックも受けた詳しく正確な内容で、「原発解説書」としてすべての人に推薦したい漫画である。

あらすじ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■ ■

上手にできた折り紙を見て欲しいのにお母さんたちは原発再稼働の話に夢中。7歳のあかねちゃんが「お母さん！ゲンパツ ゲンパツ うるさいわーっ」と怒りながら「ゲンパツってなによ」と尋ねる。お母さんは「電気を作るとこなんやけど」と言いながら家の中で電気が使われているもの探しっこゲームを始める。

その夜、夢の中で子どもたちは折紙の鶴、馬、イルカに乗って電線に沿って発電所に向かう。発電所の種類と特徴を知り、ウラン燃料を食べて動く原子力発電ゲンパッチーに出会う。ウラン鉱山での被ばく、定期点検での被ばく労働や外国人労働者も話題になる。

夢のエネルギー、核燃料サイクルはゲンパッチーのおばあちゃんが教えてくれる。使用済み核燃料に含まれるプルトニウムは長崎原爆の材料、そのプルトニウムを取り出すための再処理、プルトニウムとウランを混ぜたMOX燃料を使う高速増殖炉もんじゅ。ところがもんじゅは稼働できないまま廃炉決定。余ったプルトニウムを使うにはウラン用の原子炉をMOX燃料で稼働しなければならない。それがどんなに危険か聞いたゲンパッチーは、MOX燃料なんか食べたくない」と怒り出す。

次にゲンパッチーはおばあちゃんと青森県六ヶ所村の使用済み核燃料再処理工場に向かう。使用済み核燃料は、再処理で体積が何倍もの核ゴミになり、再処理で生じる高レベル放射性廃液は、事実上ガラス固化できず、失敗ばかり。日本で再処理できず、フランスで再処理してもらった高レベル放射性廃棄物(ガラス固化体)は、地中に埋められる温度になるまで30~50年ガラス固化体の一時冷却・保管施設で冷却が必要。冷却しても埋める場所もない。原発を動かすためには、とりあえず使用済み核燃料という核のゴミ置き場＝中間貯蔵施設を作りたい。原発を動かし続ければ日本中は核のゴミ置き場でいっぱいになる。結局、中間貯蔵施設は最終核ゴミ置き場だ。

そして、フクイチくん。2011年3月11日大地震と津波、フクイチくん全電源喪失、メルトダウン。水素爆発。大気汚染、土壌汚染、汚染水、広い地域が放射能で汚染されてしまった。日本政府の情報隠し。人々はバラバラになり心も傷ついた。フクイチくんから放射能は漏れたまま、たくさんの方が廃炉に向けて被ばく労働。日本政府が出した「原子力緊急事態宣言」は未だに解除されていない。

こんな事故があったのに日本では原発「再稼働」を進めている。事故はスリーマイル島原発事故、チェルノブイリ原発事故、茨城県 JCO 臨界事故でも起きた。これ以上原発を動かしたら大変だ。自分で未来を切り開くために、原発はダメだってみんなに伝えなければ・・・。